

2018 年度 弘前学院大学看護学部  
授業評価報告書

令和元年 5 月 22 日

弘前学院大学看護学部 FD 委員会

## I. はじめに

授業方法の改善を図ることを目的として、在学生に対し専任教員の講義、演習についてのアンケート調査を実施した。その概略について報告する。

## II. 方法

無記名の質問用紙によるアンケート方式で実施した。質問用紙は授業終了後に主旨を説明した後に配布し、事務室前の専用ボックスに各自投函させ、アンケート回収とした。設問項目は、大きく2つ設けた。「学生自身に関すること」では、授業で扱う内容への関心、授業に対する取り組み方、授業内容の理解、授業の満足度の4項目とした。さらに「授業について」の項目では、必修科目、出席状況、内容量、教員の熱意、教員の話し方、教材や資料の内容、シラバス、授業の進め方、課題などへの対応、授業の満足度の10項目とした。

## III. 実施期間

アンケート実施期間は、下記に示す。

前期科目：平成30年 7月10日～ 7月23日

後期科目：平成31年 1月15日～ 1月27日

## IV. 結果

38科目を対象とし、実施した。履修登録延べ人数2,278名に対し、回収人数は1,677名、回収率は73.6%であった。内訳では、1学年13科目、2学年14科目、3学年10科目、4学年2科目であった。

### 1) 各科目の履修登録及び回収結果について

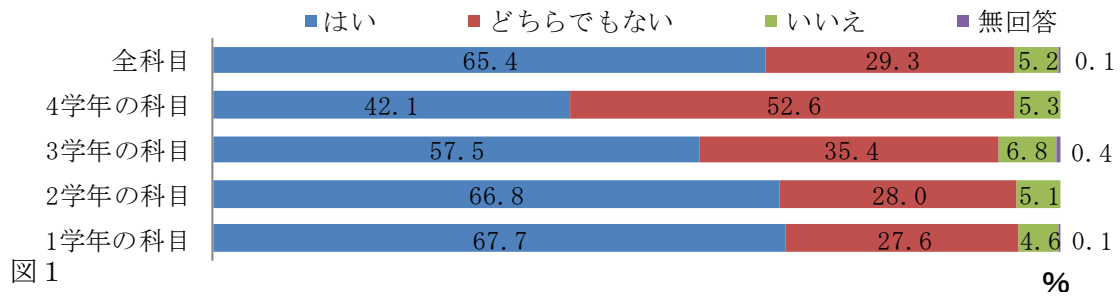
科目別の対象者及び回収結果は、表1に示す通りである。

学年	科目名	履修登録者数(人)	回収人数(人)	回収率(%)
1	基礎演習	70	56	80.0
1	生物学 ※選択科目	76	72	94.7
1	統計学の基礎	71	58	81.7
1	社会生活とマナー	70	39	55.7
1	医療概論	70	53	75.7
1	成人看護学概論	71	62	87.3
1	人体の機能Ⅰ	73	58	79.5
1	基礎看護技術論	72	64	88.9
1	看護対象論	65	41	63.1
1	人体の機能Ⅱ	72	62	86.1
1	公衆衛生学	71	58	81.7
1	精神保健	71	64	90.1
1	基礎看護技術演習Ⅰ	72	49	68.1
	1学年計(延べ人数)	924	736	79.7
2	保健統計学	67	55	82.1
2	母性看護学概論	66	54	81.8
2	看護過程論	67	57	85.1
2	基礎看護技術演習Ⅱ	65	57	87.7
2	公衆衛生看護学概論	66	49	74.2
2	英語Ⅲ	1	1	100.0
2	疫学	66	38	57.6
2	成人看護学Ⅱ	67	49	73.1
2	老年看護学Ⅰ	67	44	65.7
2	小児看護学Ⅰ	68	57	83.8
2	母性看護学Ⅰ	66	30	45.5
2	精神看護学Ⅰ	66	61	92.4
2	在宅看護論Ⅰ	67	47	70.1
2	個人・家族・集団・組織の支援	66	43	65.2
	2学年系(延べ人数)	865	642	74.2
3	保健医療福祉行政論	59	30	50.8
3	老年看護学Ⅱ	59	28	47.5
3	小児看護学Ⅱ	58	32	55.2
3	精神看護学Ⅱ	59	42	71.2
3	在宅看護論Ⅱ	59	40	67.8
3	公衆衛生看護活動論	14	8	57.1
3	公衆衛生看護活動展開論	14	12	85.7
3	公衆衛生看護学管理論	14	7	50.0
3	家族看護学	66	46	69.7
3	母性看護学Ⅱ	59	35	59.3
	3学年系(延べ人数)	461	280	60.7
4	看護情報システム論	19	10	52.6
4	国際看護論	9	9	100.0
	4学年系(人)	28	19	67.9
	総計(延べ人数)	2,276	1,677	73.6

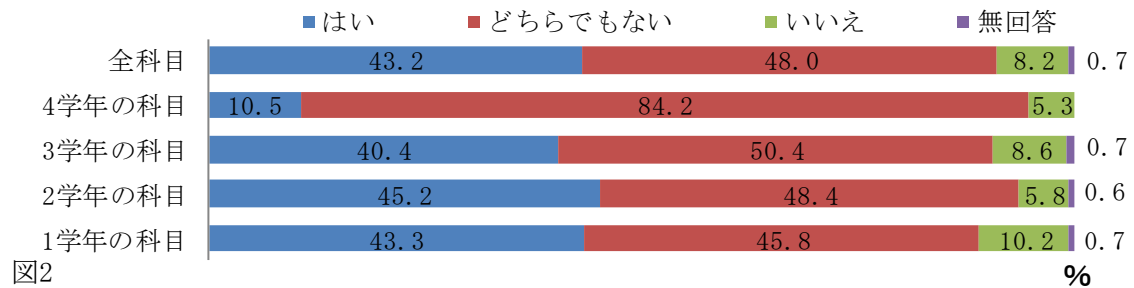
2) 質問項目別の結果について (図1~20)

(1) 学生自身について

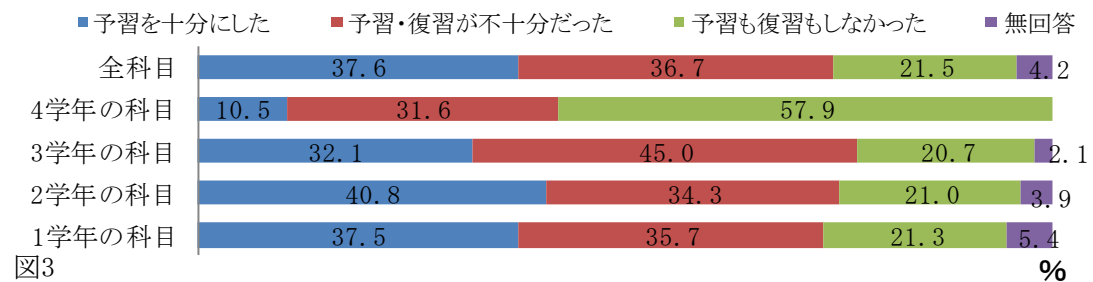
① 授業内容への関心について



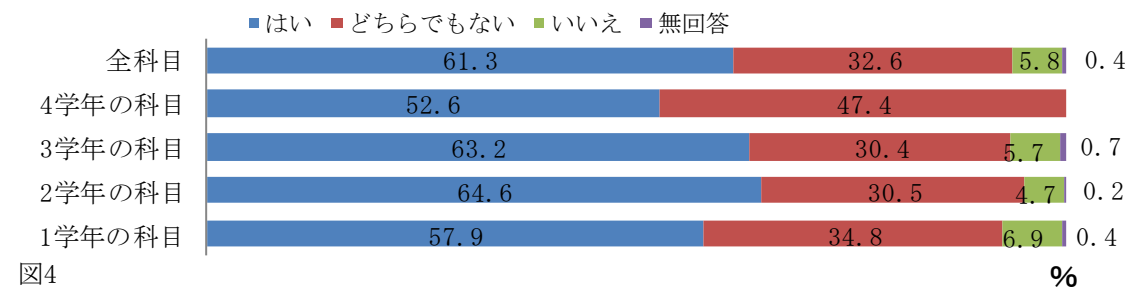
② 授業に対する取り組み方は、十分であるかについて



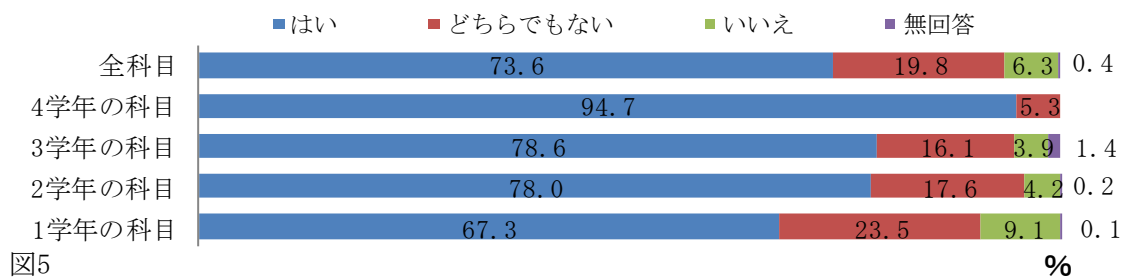
③②の理由について



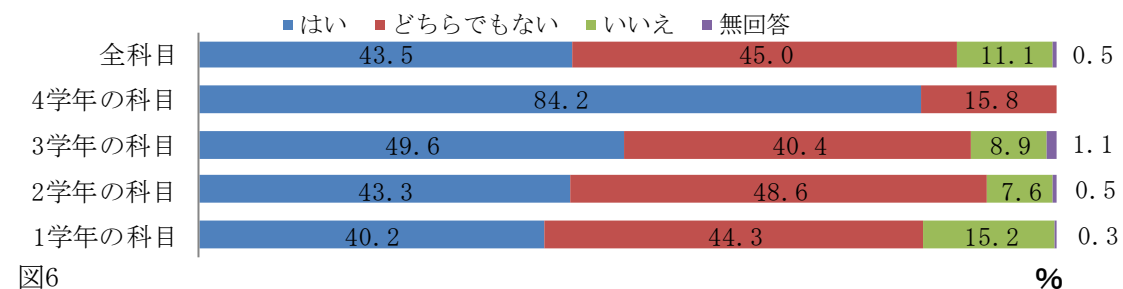
④ 授業を理解するための取り組みについて (私語、居眠りをせず集中したか)



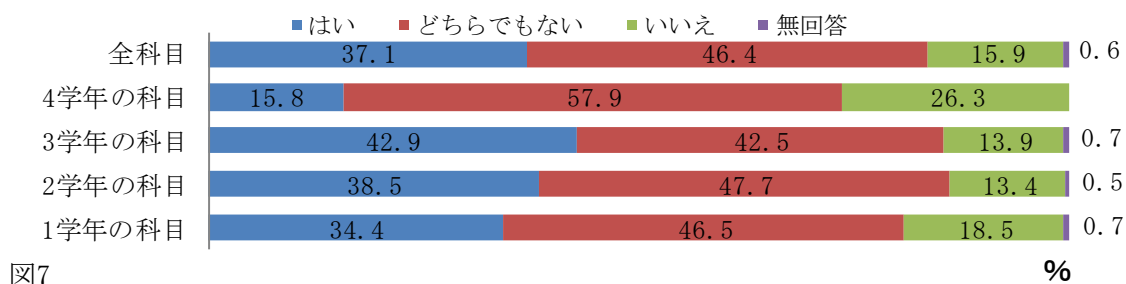
⑤授業を理解するための取り組みについて（大事なことはノートに書き記したか）



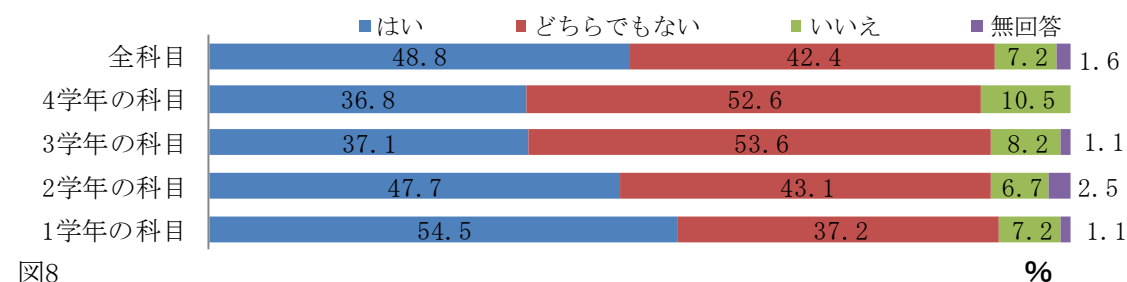
⑥授業を理解するための取り組みについて（質問に対して積極的に答えたか）



⑦授業を理解するための取り組みについて（疑問点の質問に心掛けたか）



⑧授業内容の理解について



⑨⑧の理由について

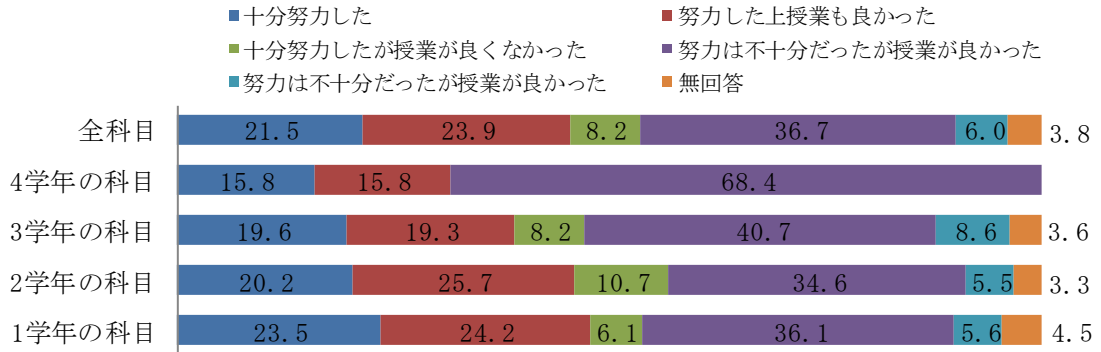


図9

⑩授業内容の満足感について

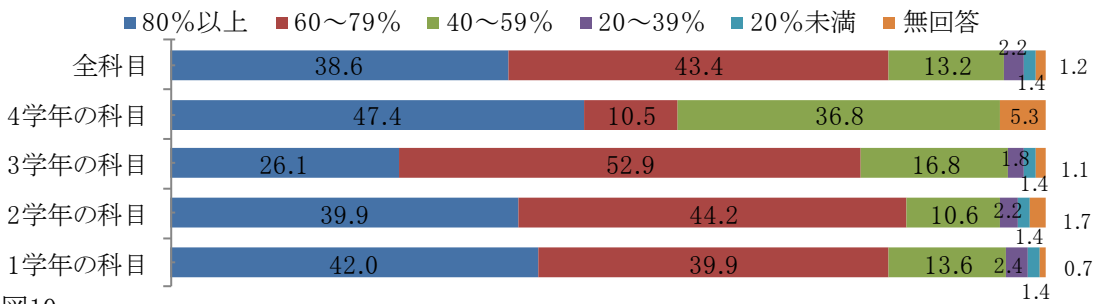


図10

(2)授業について

①必修科目の認識について

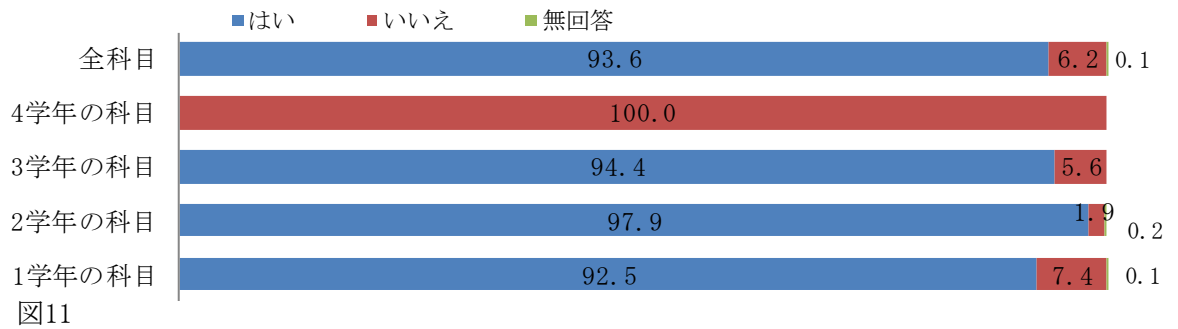


図11

②科目への出席状況について (\*選択肢4は、該当なし。)

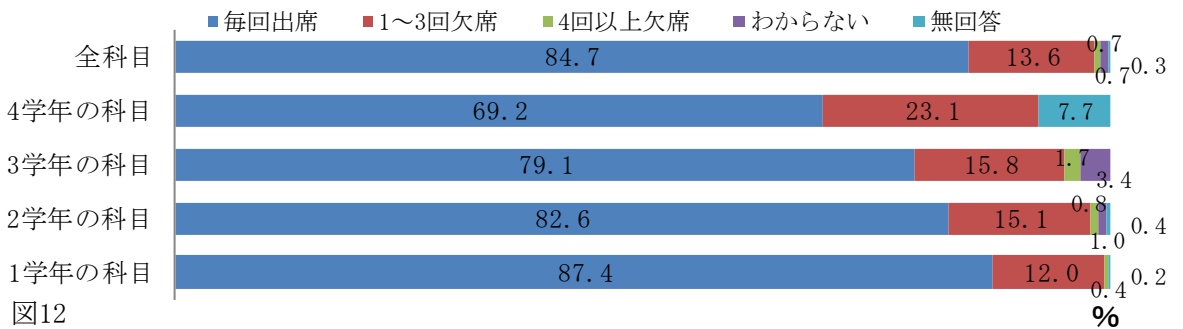
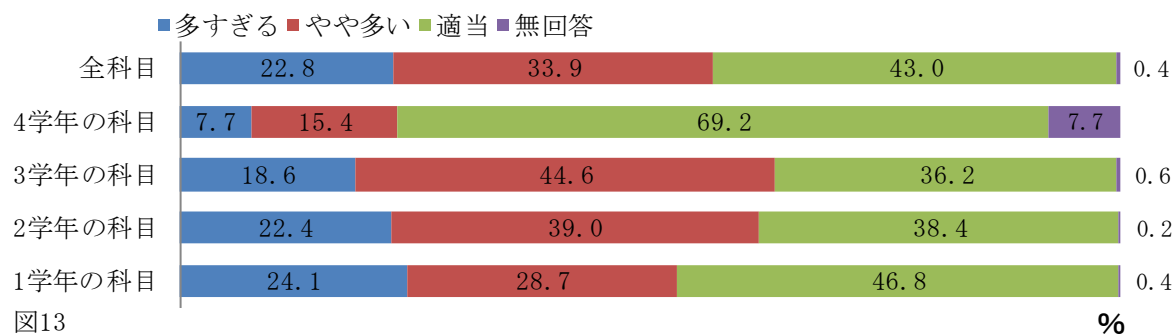


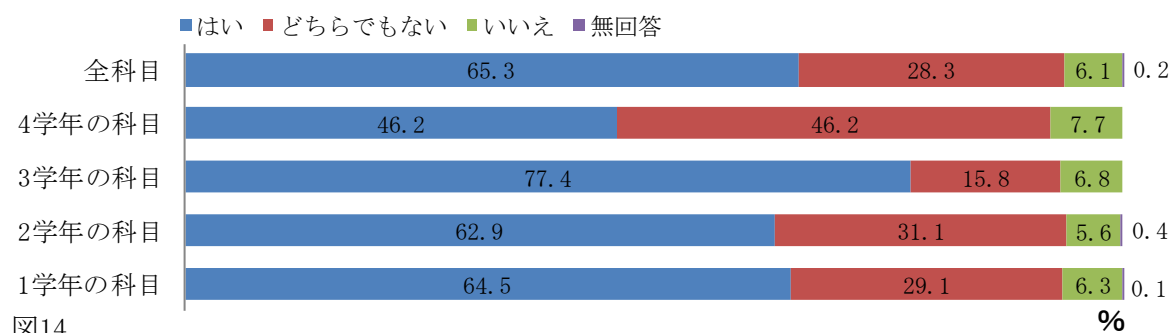
図12

%

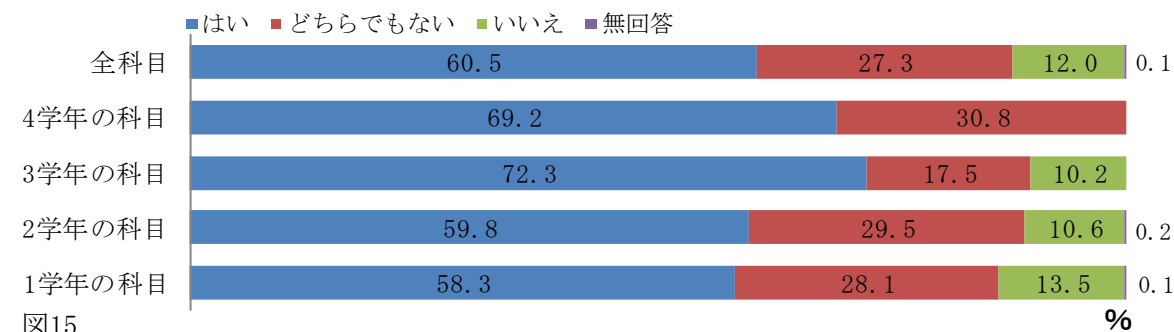
### ③授業内容の全体量について



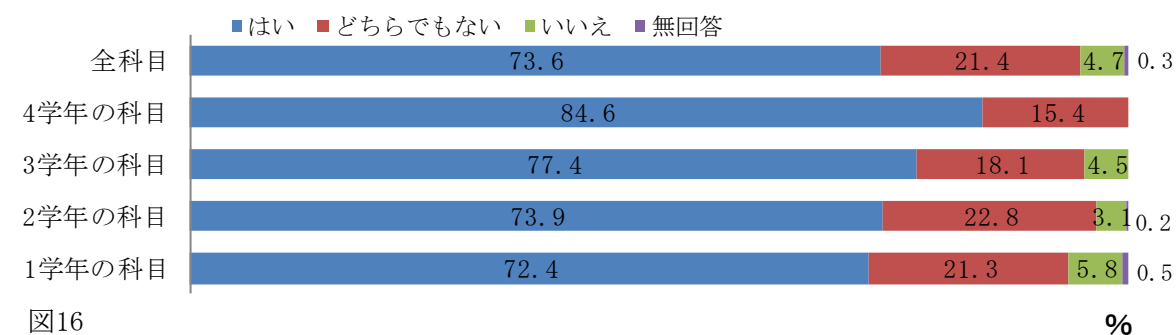
### ④教員の熱意について



### ⑤教員の話し方や聞き取りやすさについて



### ⑥教材や資料は授業内容を助けるものであったかについて



⑦授業はシラバスに沿っていたかについて

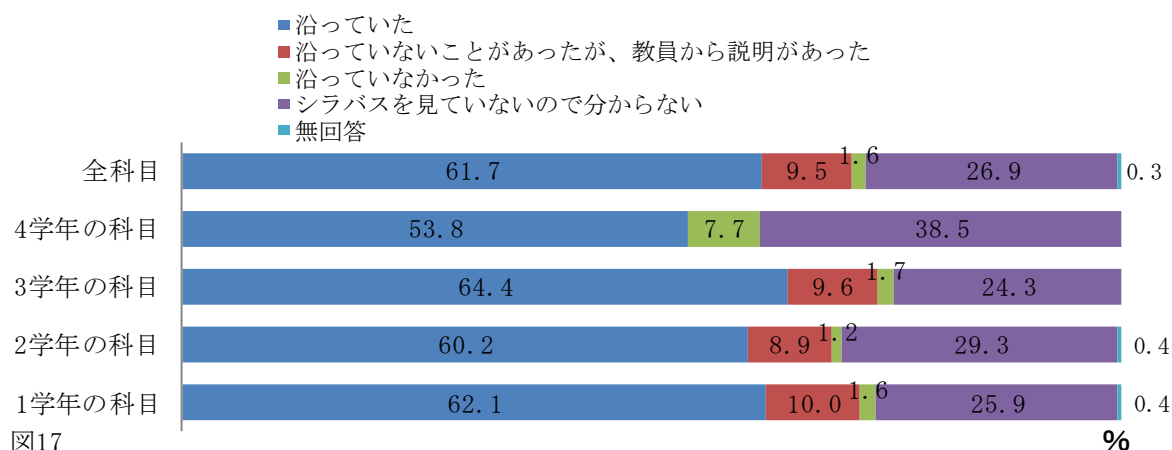


図17

⑧教員は学生の理解の程度を把握し、授業を進めていたかについて

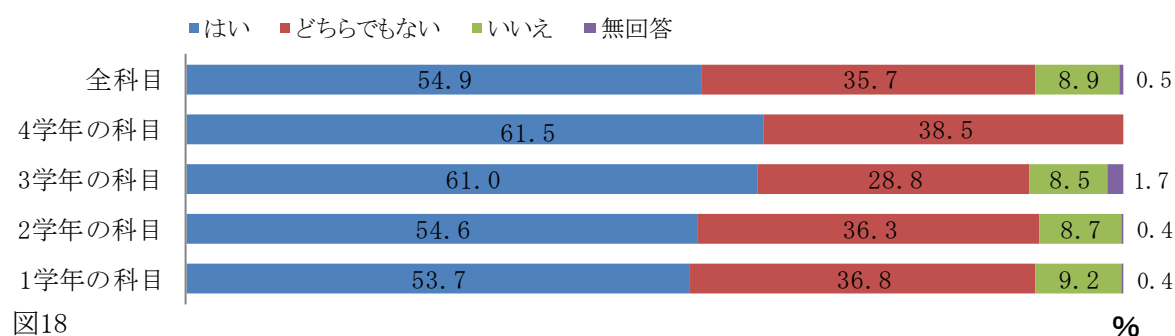


図18

⑨教員は提出した課題を適切に対応していたかについて

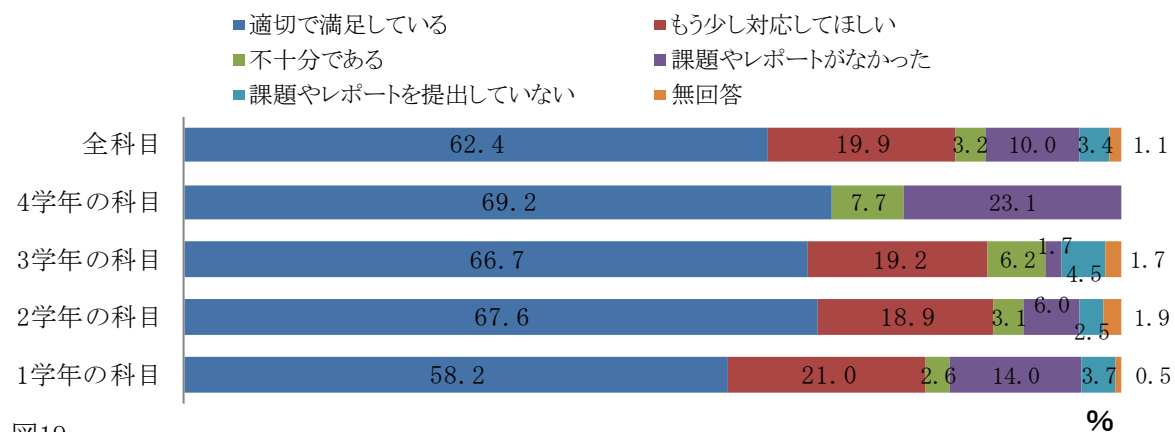


図19

⑩授業を受講してよかったかについて

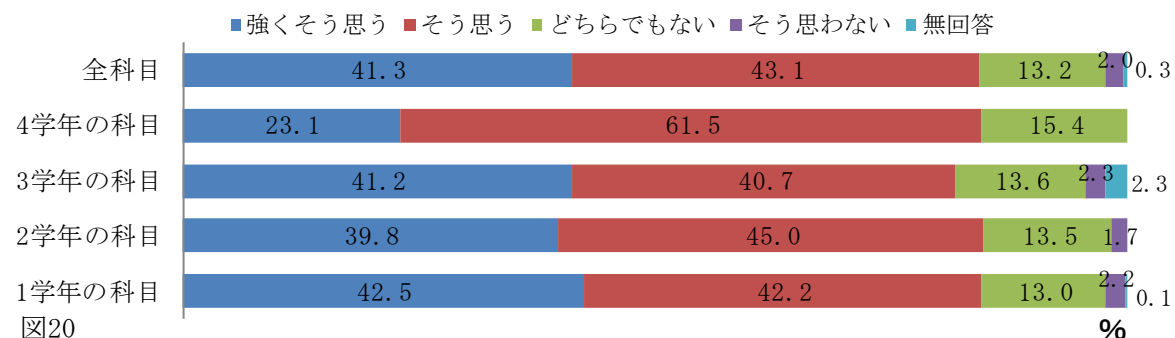


図20



## V. まとめ

全体の回収率は 73.6%(昨年 67.6%)であり、学年別では 1 年生 79.7%、2 年生 74.2%、3 年生 60.7%、4 年生 67.9%であった。

以下のように考察した。

### 1. 学生自身について

- ・授業の関心については、全体では 64.5%(昨年 60.8%、以下括弧内は昨年度の数値)が関心を持ち取り組んでいた。
- ・授業への取り組みでは、全体では 43.4%(39.4%)が十分取り組んでいた。予習については 37.6%(34.0%)が十分していた。講義に集中していたか 61.3%(56.7%)、大事なことはノートに書き記したか 73.6%(71.0%)、質問へ積極的に答えたか 43.6%(42.2%)、疑問点の質問に心がけたか 37.1%(33.8%)であった。
- ・授業内容の理解については、理解できたが 48.8%(39.4%)、その理由については十分努力したは 21.5%(22.6%)、努力は不十分だったが授業が良かったが 36.7%(37.4%)、特に 4 年生では 7 割近く of 学生が同様に答えていた。
- ・授業内容の満足度については 80%以上の満足度が 38.6% (32.3%) で、60~79%の満足度を足すと 8 割以上が満足していた。

### 2. 授業について

以下はほぼ昨年同様の回答であった。

- ・出席状況は 84.7%が毎日出席、13.6%が 1~3 回欠席であった。
- ・授業内容量については、多い 22.8%、やや多い 33.9%、適当 43.%であった。
- ・教員の熱意は、65.3%の学生が感じていた。
- ・教員の話し方、聞き取りやすさでは、60.5%が良いと回答していた。
- ・資料が授業を助けるかについては、73.6%の学生がはいと答えていた。
- ・シラバスに沿っていたかは、61.7%の学生がはいと答えていた。
- ・教員は学生の理解の程度を把握し、授業を進めていたかについては、54.9%の学生がはいと答えていた。
- ・教員は提出課題に適切に対応したかについては、適切で満足が 62.4%、もう少し対応してほしいが 19.9%あった。
- ・授業を受講して良かったかは、強くそう思うが 41.3%、そう思うが 43.1%で、8 割以上が良かったと回答していた。

## VI. おわりに

これらの結果をふまえて、授業改善への取り組みについて、それぞれの教員がFD委員会へ文書で提出し教員全体で共有した。

また、学生が短時間で記入しやすいように評価用紙を 2 枚から 1 枚に様式を変更した。

今後さらなる改善をして授業改善を図っていきたい。

#### 【編集担当者】

弘前学院大学看護学部 FD 委員会

大瀬 富士子

川村 泰子

高橋 義孝

村岡 祐介

